

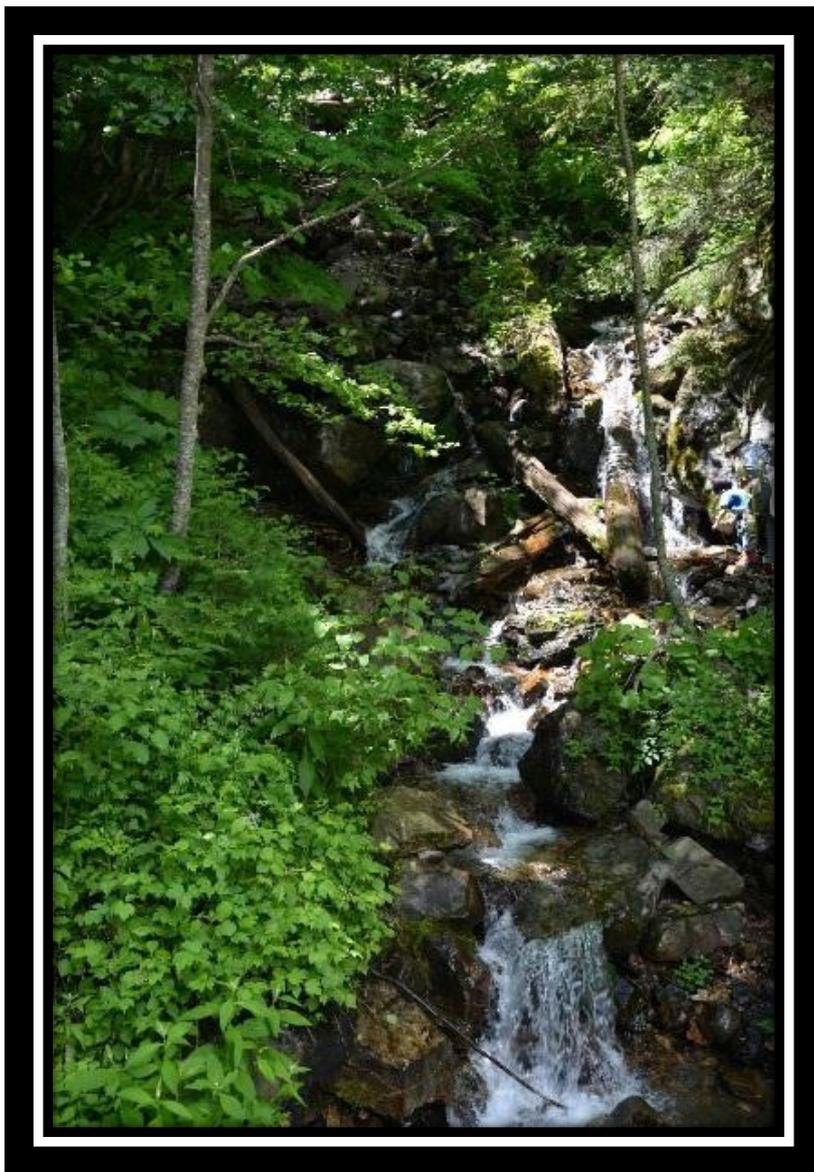
あいさいさん NEWS

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

木曽川源流を訪ねる



「木曽川は長野県の鉢盛山を源流とし・・・」あいさいボランティアガイドの会では、愛西市観光協会が運営している木曽川観光船事業で木曽川の歴史や自然についてガイドしています。ガイドの一人Mさんの「源流を見たい」との話がきっかけとなり、去る6月29日にボランティアガイドのメンバーを中心に有志18人に参加いただき源流を見るツアーを実施しました。

ツアーは、木曽川源流がある長野県木祖村藪原にあるNPO法人「木曽川・水の始発駅」にご協力をいただき実現しました。このNPO法人では、現地集合で年3回登山ツアーを企画し一般公募しており、昨年は各回10人程度が参加しているそうです。また、私たちと同じように、木曽川下流の地域から個別に依頼があるそうです。

さて、厳密には木曽川は、長野県木祖村藪原で味噌川と笹川が合流して木曽川になります。藪原は江戸時代中山道の宿場町として栄えた集落でした。

味噌川にはロックヒル様式の多目的ダムである味噌川ダムが建設されています。味噌川ダム横には独立行政法人・水資源機構の資料館（無料）が建っており、ダム湖の途中にある橋までは一般観光地となっておりマイカーでも入れます。途中、「絆の力水」と命名された美味しい清水が出ている場所があり、自由に呑むことができます。（2頁に続く）

木曾川源流を訪ねる

(表紙から続く)

橋からさらに谷奥へ入る林道は営林用であり、入口にチェーンがかけられていて入山には許可が必要です。ツアーでは NPO 法人に許可申請してもらいました。

ここから林道は味噌川の流れて延々と続き、途中から未舗装の道になり、路肩が崩落している危険な箇所もあり車でも約1時間かかります。そして、標高約1600m付近にある林道のほぼ終点地にあるワサビ沢に「木曾川源流の碑」が立てられています(左上写真)。ただし、源流とは言っても水量はかなり多く、小さな滝のように水がザアザア流れていました(表紙写真)。

碑から50m程林道を歩いた地点から味噌川が刻んだV字谷を見下ろせる良い展望地があり、味噌川ダム上流の深い森林の景色を楽しめます。晴れば前面に中央アルプスの最高峰である木曾駒ヶ岳が見えるそうですが、今回は残念ながら雲の中でした。(左中写真)

なお、参加者の内5名は、鉢盛山山頂(標高2447m)まで行ってきました。源流部には熊が生息する深い木曾

檜などの自然林の森が広がっていました。鉢盛山はその名前のように、山頂は丸く広く、山頂に近付くと傾斜が緩くなり、全体が亜高山帯となった針葉樹林が生い茂っています。このため山頂からの展望は良くありません。鉢盛山は雨乞いを祈願する山として、山頂には、麓の四方の村が設置した四つの雨乞祠と国土地理院の一等三角点などが置かれています。NPO 法人によると、木祖村は江戸時代には尾張藩領であり、古くから現在まで木曾五木(ヒノキ・アスナロ(アスヒ)・コウヤマキ・ネズコ(クロベ)・サワラの五種類の常緑針葉樹)を中心とした森林資源が守られています。

今回の私たちのツアーには、NPO 法人の代表である澤頭様がわざわざ案内して下さいました。澤頭様は、著名な郷土史家で、「ヒノキ(桧)とサワラ(榎)は区別がとても難しい。尾張藩の役人でも、区別が難しいからヒノキに似た樹木を木曾五木としてすべて守っていた、サワラを区別する仕方として『H(えっち)触ら(サワラ)ないで!』と覚えると良い」などと楽しく解説していただきました。ヒノキは葉裏の模様(気孔帯という)がYの字、サワラはHの字に見えるそうです。

木祖村には、木曾川や愛知用水を水資源として生活している名古屋市をはじめ木曾川下流域からたくさんの方が観光に来ています。今回のツアーで、木祖村と愛西市とは木曾川の始発・終着駅として今後とも交流を深めていきたいと思いました。

蛇足ではありますが、尾張津島天王祭の布鉾に付けられている鉾の材料はサワラです。今年の祭に奉納された布鉾は、紅白梅と共に、愛西市文化会館玄関に9月中旬頃まで展示(右写真)してありますので、この機会に布鉾の大きさを実感して下さい。



愛西市の有望な観光資源はどこ？

愛西市の有望な観光資源、観光スポットはどこでしょう？ 市内外の観光客を案内するバスツアーを企画した場合にどこが良いでしょう？ あいさいボランティアガイドの会では、4月10日と17日に愛西市のバスを利用して愛西市全体の史跡を巡る視察（モニターバスツアー）を実施し、参加者にアンケートを配布して回答いただきました。ただ、アンケートの設問が良くなかった、あるいは、回答数が少なかったために、観光客を案内するバスツアーの企画をするためには十分な資料とはなりませんでした。が、回答いただいた内容には愛西市の観光行政に活かせるアイデアが多くありました。今後アンケート集計の報告を順次発表しますが、今回一部のデータを報告します。

設問1：モニターバスツアーで観光資源として特に有望な場所は？

- 回答として、視察した愛西市内 25ヶ所の観光地について有望かどうかを複数回答可として選択してもらいました。結果で一人も選ばなかった場所は「ねじ柳の碑」だけでした。ねじ柳の碑は、モニターバスツアーで木曾川河川敷を長距離歩いたため評価が低くなったようです。この結果は、意見が分かれて愛西市には一級観光地が無いとよく言われる事実を反映したと考えられます。回答者数（11人）の中で約半数の方が有望と選ばれた場所は、**佐屋宿場町（82%）、船頭平閘門（73%）、勝幡城跡（64%）、御囲堤跡・森川花はす田・勝幡の町並み・奥津神社（各 55%）水鶏塚（46%）**でした。＜有望率（%）は選択者数を回答者数で割った値です＞
- 選択していただく場所以外の観光資源で、その他として鈴木家住宅、歴史民俗資料室などの意見もありました。なお、ツアー中に、愛西市内にある気象を観測しているアメダス地点（八開中学校南）の場所がわかって良かったという意見もありました。

木曾川・驚異の自然

愛西市観光協会では、8月の10日（日）と23日（土）に木曾川の自然を生かした「地引網体験」を開催し、ボランティアガイドの会でも木曾川の自然案内や運営を協力する予定でしたが、残念なことに二日とも中止となりました。

地引網の事業に先立ち実施されたリハーサルでは、大きな黒鯛が捕れたそうです。来年こそは、天候に恵まれて楽しい事業が実現されることを祈願します。

ところで、今夏は、全国でも集中豪雨による被害が頻発しましたが、「地引網体験」開催日は当地の天候も悪く中止になりました。10日には、台風11号が当地方に接近して強風と大雨に見舞われ、また、22～23日にかけては、岐阜県で大雨洪水警報が発令されました。この状況では、木曾川は大増水し、馬飼大橋の河口堰が開かれ、愛西市の木曾川でも様子が一変します。葛木港埠頭の岸壁ぎりぎり（右写真）まで水が一杯になり、上流からは巨大な流木が流れてきて、干潮時に見られる砂浜はすっかりなくなりました。日頃は穏やかに干満を繰り返す自然豊かな美しい木曾川ですが、時に自然の驚異を垣間見せます。葛木港の木曾川水位は国土交通省の水位計で自動計測され、防災用HPなどにデータが表示・記録されています。



8月16日の木曾川：増水により大量の水が流れる。葛木港にある木も水没寸前でした。

あいさいボランティアガイドの会 8月定例会 議事録

8月の定例会は、8月17日（日）に文化会館で開催しました。8月は定例会に先立ち平成26年度総会を開催しました。会員25名の方に出席していただき、荻野会長を議長として、式次第に従い、平野事務局長により平成25年度結果・平成26年度計画の説明、役員人事案の提案を実施し、承認をいただきました。また、ご多忙中にもかかわらず来賓として出席いただいた愛西市副市長の鈴木様、愛西市観光協会会長の加藤様に祝辞をいただきました。

また、総会に引き続き、8月定例会として下記活動予定について話し合いました。

- ① 8月23日（土）開催の地引網体験の準備
- ② あいさいさんアイデアコンテストの案内（下記参照）
- ③ 次回の定例会（下記参照：9月21日・八開庁舎集合）
- ④ その他

9月以降には観光協会では今年度末発行予定のウォーキングマップ検討会議を発足します。

また、観光協会では、あいさいの日（1月31日）検討委員会を発足します。



あいさいさん

「あいさいさん」アイデアコンテスト

愛西市観光協会では、愛西市マスコットキャラクター「あいさいさん」のデザインを応用するアイデアコンテストの作品を募集しています。事務局に応募用紙を用意しましたので、9月30日までに、応募用紙に住所・氏名・年齢・連絡先・作品イメージを明記の上、観光協会事務局に提出して下さい。作品を自作された方は、応募用紙に作品の写真を添付するだけで済みます。アイデアのある方は是非応募して下さい。

9月定例会の予定

日時：9月21日（日）9時～

集合場所：八開庁舎集合

内容：定例会 および 八開地区研修

＝ 編集後記 ＝

これまで、あいさいボランティアガイドの会では、会員のみなさんに定例会の連絡を定期的に案内してきましたが、今後は、会の機関紙を発行します。内容として、ボランティアガイド定例会の開催案内や観光協会の予定だけではなく、花情報・観光スポットなど愛西市の観光資源に関する情報誌、ボランティアガイドの会としての活動を紹介する広報誌として機能するものをみなさんにお届けしたいと思っております。例えば、情報として織田信秀が食した蓮飯の話など、あるいは、活動紹介として蓮見の会・地引網体験の報告などです。今後、会員のみなさんには、記事提供のご協力をお願いします。また、機関紙の名称に今回は「あいさいさん NEWS」と仮称を付けましたが、タイトルも現時点で未定でありアイデアを募集しております。

なお、この機関誌は観光協会事務局にも置き、一般の方にも情報提供したいと思います。一般の方で、ボランティアガイドの活動に興味を持たれた方は事務局に連絡下さい。